

東北大学大学院リーディングプログラム学生
「認定式」挨拶文 2018.4.2

東北大学学位プログラム推進機構リーディングプログラム部門長の静谷です。2018年度の認定式の開催にあたり、一言、お祝いの言葉を申し上げます。

東北大学大学院リーディングプログラム、グローバル安全学トップリーダー育成プログラムに、第6期生となる8名、そしてマルチディメンジョン物質理工学リーダー養成プログラムに第5期生5名の皆さんを本日こうしてお迎えできたことを大変嬉しく思います。

これから始まる皆さんの大学生活は、所属する大学院各研究科での学修に加えて、産学官で活躍できるグローバルリーダーの養成を趣旨とする本プログラムの学修・研修もこなす必要があるため、特段の勤勉さが求められる日々になるかと推察されます。そのような形で自身を高めようと決断した皆さんに、歓迎と等しい重みで敬意を表します。

ぜひ、それぞれのプログラムの仲間と、ときには別のプログラムの学生と、リーダーシップについてはもとより、両輪となるフォロワーシップの在り方などについても議論を重ね、主体的に学び合い、それぞれの個性を活かしながら、思い描く自分自身の将来の姿を実現していただきたいと思います。

ところで、現在の先進諸国を見渡しますと、深い教養と高い能力を備えたリーダーが社会の中核で活躍する一方で、それを打ち消すかのように、反グローバリズム、反エリート、反知性主義が社会に蔓延していることにも気づかされます。

私たちが人材育成の教育理念として据えているものと対極にあるものが世界に蔓延しているこの事態に、深い憂慮の念を禁じ得ません。しかしながら、大学は社会と同じ考えを持つことが必ずしも求められていない組織であり、むしろ、社会と異なる見識を持つことにこそ逆説的に大学の社会的存在理由があるとも言えます。そしてその気概をもって、私たちはこの事態に向き合う必要があると考えており、認定式にあたり、その決意を新たにします次第です。

最後に、本プログラムを修了して博士の学位を授与された皆さんが将来、世界全体の課題解決と発展に貢献する指導的人材となって活躍し、反知性主義などを是とする人々ですら尊敬してやまない特別な存在となることを願って、またそのための努力を怠らない皆さんを大学が全力で支援することをお約束して、ご挨拶とさせていただきます。

2018年4月2日

副機構長・リーディングプログラム部門長

静谷 啓樹